

臨床実習後OSCEにおける評価に関する研究

研究分担者 伊藤彰一・千葉大学・教授
研究分担者 石原慎・藤田医科大学・教授
研究分担者 鋪野紀好・千葉大学・特任准教授

研究要旨

海外の医師国家試験実技試験の予備調査の結果をふまえ、臨床実習後OSCEの評価に関する現状の問題点を抽出し、解決案をまとめることを目的として、英国、カナダ、台湾、韓国等の医師国家試験技能試験の現状（試験課題数、評価者、標準模擬患者、合否判定・再試験など）を調査し、我が国の現状と比較した。我が国の臨床実習後OSCEの評価の標準化を図るためには、実行可能性に配慮しつつ評価者や標準模擬患者の確保などの検討と、試験課題数の検討を引き続き行う必要があると考えられた。

A. 研究目的

海外の医師国家試験実技試験の調査結果をふまえ、臨床実習後OSCEの評価に関する現状の問題点を抽出し、解決案をまとめる。

B. 研究方法

英国、カナダ、台湾、韓国の医師国家試験技能試験の現状（試験課題数、評価者、標準模擬患者、合否判定・再試験など）を調査し、我が国の現状と比較する。直接情報収集ができない国・地域については、文献レビューを行う。

（倫理面への配慮）

- ・本研究においては、個人や組織を直ちに識別出来ない形で各種データを解析する。個人の試験成績や評価結果等も収集するが、個人に生じる新たな負担や予想されるリスクはないことから、文書による説明・同意取得等は行わない。
- ・本研究の成果は研究報告書として公開されるが、個人や組織が特定されないことがないよう、十分に配慮する。

C. 研究結果

I. 試験課題数について

今回調査を実施した国・地域では12課題程度が実施されていた。

II. 評価者について

調査対象の国・地域における受験者評価は、試験室ごとに1名の評価者が実施していた。医師以外の医療専門職が評価を

担っている国・地域もあった。

III. 標準模擬患者について

各国・地域において、標準模擬患者（Standardized Patient; 以下「SP」）の養成に関する取組が行われおり、SP養成を主として担当する組織が存在した。英国では各医学部がSPを養成し、カナダではNAC試験を実施する試験会場がSPを募集し、養成をおこなっていた。台湾では各OSCEセンターがSP養成プログラムを企画・管理・計画し、資格のあるSPとなるための新しいメンバーを継続的に募集していた。韓国では国立国家試験院がSPの募集・採用・養成を担当し、毎年5～8月に計8回の養成機会が提供されていた。また、台湾と韓国では、SP研修プログラムの認定に関する組織があり、SPトレーニングの質の一貫性を確保していた。

IV. 合否判定・再試験について

合否判定方法としてボーダーライン回歸法が広く採用されており、試験の公平性・妥当性・客観性を評価するための仕組みが確立されていた。

再試験については、英国では年に2回の受験機会があり、不合格の場合はその年を繰り返すことができる一方、韓国では再試験の機会が設けられていなかった。台湾では、春期に行われる試験で不合格となった場合、その年の秋期に再度受験することが可能となっていた。

D. 考察

我が国の臨床実習後OSCEでは、医師2名による評価で標準化を図っている。海外

の現況を参考にすると、評価者の確保の観点からは、医師1名での評価や、他の医療専門職を活用した評価について検討する価値があると考えられる。ただし、海外の如く十分な課題数による試験の実施と本邦でも他の医療専門職が海外のような医行為の権限が与えられることが必要かもしれない。

臨床実習後OSCEにおけるSPについては、試験実施大学でSPの確保が難しい場合、医師がSPを務める事例がある。医師がSPを担当することは臨床現場を想起しやすいことにメリットがあるが、人的資源の有効活用、受験者の使用する専門用語に対して違和感なく反応をする、受験者は指導医を相手にしているように感じる等のデメリットが挙げられる。これらの課題を解決する方略として、俳優によるSP確保も方略の1つとして検討する価値があると考えられる。

出題する課題数については、我が国では機構課題として3課題の実施を原則とし、大学独自課題として3課題の実施が望ましいとされ、合計6課題での評価が推奨されている。我が国で12課題を国家試験として実施する場合には、試験を行うスペースの確保、評価者や模擬患者の確保等、試験実施するために必要な人的及び物的資源の確保が大きな課題である。そのため、今後、試験室あたりの評価者数と試験課題数については、実行可能性も考慮しつつ検討する必要がある。

なお、再試験については実施体制やスケジュール、医師臨床研修マッチングとの関連が大きいことが推測される。複数回受験可能にすることは容易ではないが、英国のように国家試験という形式をとらない場合は学内の再試験としての複数回の実施が容易となる可能性がある。

E. 結論

臨床実習後OSCEの評価に関する現状の問題点を抽出し、解決案をまとめることを目的として、英国、カナダ、台湾、韓国等の医師国家試験技能試験の現状（試験課題数、評価者、標準模擬患者、合否判定・再試験など）を調査し、我が国の現状と比較した。臨床実習後OSCEを医師国家試験化するにあたっては、評価の標準化を図るために、実行可能性に配慮しつつ、評価者や標準模擬患者の確保などの検討と、試験課題数の検討が引き続き必要である。

F. 研究発表

1. 論文発表

- Yukiko Kono, Keiichiro Miura, Hajime Kasai, Shoichi Ito, Mayumi Asahina, Masahiro Tanabe, Yukihiro Nomura,

Toshiya Nakaguchi. Breath Measurement Method for Synchronized Reproduction of Biological Tones in an Augmented Reality Auscultation Training System. *Sensors* 24(5) 1626-1626, 2024

- Ikuo Shimizu, Hajime Kasai, Kiyoshi Shikino, Nobuyuki Araki, Zaiya Takahashi, Misaki Onodera, Yasuhiko Kimura, Tomoko Tsukamoto, Kazuyo Yamauchi, Mayumi Asahina, Shoichi Ito Eiryo Kawakami. Developing Medical Education Curriculum Reform Strategies to Address the Impact of Generative AI: Qualitative Study. *JMIR medical education* 9 e53466, 2023
 - Kosuke Ishizuka, Kiyoshi Shikino, Hajime Kasai, Yoichi Hoshina, Saito Miura, Tomoko Tsukamoto, Kazuyo Yamauchi, Shoichi Ito, Masatomi Ikusaka. The influence of Gamification on medical students' diagnostic decision making and awareness of medical cost: a mixed-method study. *BMC medical education* 23(1) 813, 2023
 - 清水郁夫, 伊藤彰一, 西城卓也, 松山泰. 魔法の弾丸がない世界で: 評価の妥当性, 有用性, そして改善へのフィードバック. *医学教育* 54(4) 357-366, 2023
 - An Kozato, Kiyoshi Shikino, Yasushi Matsuyama, Mikio Hayashi, Satoshi Kondo, Shun Uchida, Maham Stanyon, Shoichi Ito. A qualitative study examining the critical differences in the experience of and response to formative feedback by undergraduate medical students in Japan and the UK. *BMC medical education* 23(1) 408, 2023
- ### 2. 学会発表
- 伊藤彰一. 医学生臨床実習前 OSCE 実施後調査票のまとめ. 試験信頼性妥当性検討委員会第24回講演会, 2024
 - Kyoko Amai, Akiko Nosaki, Sonopan, Ganpatrao Joshi, Shital Pimpalekar, Narumi Ide, Jiaru Sun, Mayumi Asahina, Toshiya Nakaguchi, Yuko Sekine, Miyuki Ishibashi, Kieko Iida, David Casenove, Aya Nakai, Masayuki Ishikawa, Shoichi Ito, Hajime Kasai, Kazuyo Yamauchi, Kiyoshi Shikino, Yutaka Iwasaki, Eri Nakamura, Izumi Usui, Ikuko Sakai. GRIP: Global & Regional Interprofessional Education Plus Program. The 11th International Conference on Interprofessional Practice and Education, 2023
 - 伊藤彰一. 医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂と自大学卒業コンピテンシー

改訂の連動について. 第1回オンラインシンポジウム「コアカリ改訂に向けての作業の実際」, 2023

- Kosuke Ishizuka, Kiyoshi Shikino, Hajime Kasai, Yoji Hoshina, Saito Miura, Tomoko Tsukamoto, Kazuyo Yamauchi, Shoichi Ito, Masatomi Ikusaka. The Influence of Gamification on Medical Students' Diagnostic Decision Making and Awareness of Medical Cost: A mixed-method study. AMEE 2023
- Kiyoshi Shikino, Kazuyo Yamauchi, Yu Kamata, Shinya Aoki, Yota Katsuyama, Daichi Sogai, Mai Miyamoto, Kensuke Yoshimura, Takeshi Oki, Shoichi Ito. Impact of mentoring by attending physicians and continuous faculty development on medical students' community healthcare perceptions: A qualitative study. AMEE 2023
- 伊藤彰一. 医学教育モデル・コア・カリキュラム (令和4年度改訂版) の概要について ～評価の章を中心に～. TOHO WS '23
- 高村昭輝, 伊藤彰一, 椎橋実智男, 藤崎和彦, 守屋利佳. プレコンGRESワークショップ1 EPA の正しい理解と可能性. 第55回日本医学教育学会大会, 2023
- 伊藤彰一. わが国における臨床実習前OSCEの到達基準. 第34回医学教育指導者フォーラム, 2023
- Takeshi Kimura, Hiroshi Nishigori, Makoto Kikukawa, Shoichi Ito, Toshiyuki Ito, Nobuhiko Saito. Validation of OSCE test items that medical students should master before clinical clerkship: a modified Delphi study. Asia Pacific Medical Education Conference (APMEC) 2023

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし